
ゴーストスイーパー横島 極楽大作戦R!!

スイショウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴーストスイーパー横島 極楽大作戦R！！

【Nコード】

N9679Y

【作者名】

スイシヨウ

【あらすじ】

美神令子嬢 美神除霊事務所所長。この業界ではトップクラスの実力の持ち主である。横島忠夫 美神除霊事務所に所属するアルバイト所員。荷物持ち兼丁稚兼高校生。この業界では、いや業界を超えてトップクラスの 女好きである。そんな彼の物語。

この小説は原作とは微妙なズレを生じさせたいわゆる再構成モノです。シリアス度は低めになっております。

arcadia様でも掲載中です。

漢（オトコ）の決意

命とプライド、どちらを取るか。

命と金、どちらを取るか。

ためらう事なく即答しよう。

命の方が大事に決まっていると。

しかし、だがしかし！

命と女。ならばどうだ？

ただの女ではない。綺麗なねーちゃんだ。ムチムチプリンの極上なねーちゃんだ。

しかも！ しかも相手は尽くすタイプだと言っている！ 出血大サービスだと言っているツ！！

この世に生まれ落ちて17年。ようやく訪れた我が世の春の前に、この熱く滾る情熱を抑えることなど出来ようか！？

答えは否。断じて否！！

「と、ゆーことで目の前に開かれた青春の門への誘惑に勝てなかったんやーっ！」

「何がとゆーことで、だ！ 毎度ながらいいように操られよってかにコイツは。」

しかも、今回は雇い主を生贄にしようなんてね。いい根性してるじゃないの横島くん？」

「かんにんや〜っ！ しかたがなかったんや〜っ！！ だってだって、あの女の幽霊が美神さんにとり憑いたら二人で幸せになれるってーっ！ なるうってーっ！！！」

「ええいッ！ 泣きつくな抱きつくな離れんかこのクソガキー！

「！」

「ああつ、お姉さまの良い匂い！ 美神さんってあつたかいなー！
やわらかいなーっ！！」

「ぶち殺すぞこのセクハラ小僧が！！」

私の名前は横島忠夫。平凡で善良な17歳の青少年。前途有望な若者である。

異国へと旅立った両親の手を離れ一人日本に残った私は、一日も早く自立した人間になれるように学業の合間をぬってはアルバイトに精を出す日々を送っていた。

美神除霊事務所。それが私の職場である。

平時には平凡な学生として日々を過ごし、時が来れば人に仇名す悪鬼悪霊を打ち払う正義のゴーストスイーパー！。

それが私のもう一つの顔だ。

折からのバブル景気、それに伴う地価高騰によって地縛霊の除霊は超ボロい仕事となっていた。

一般人が住む場所にすら不自由し始めたこの国に、もはや幽霊であるうとも住まわせておく余裕はない。

そして、地縛霊に対する除霊への報酬が跳ね上がった影響か、除霊という行為自体へ求められる報酬の相場も比例するように上昇する。

多くの霊能者、それに関係する者たちが莫大な利潤を生み出すソレへと群がり、除霊は一大ビジネスとなつて瞬く間に世間へと広まっていた。

無論、おいしい話には裏がある。

富と言つりターンを得るために、悪霊相手に差し出すチップは己の命である。

これを高いと見るか安いと見るかは人それぞれであろうが、私に言わせればそんな物に命をかける彼らの気がしれない。

そんな強欲者たちの中でも一際異彩を放つのが私の雇い主であり目の前にいる人物、美神令子嬢だ。

燃えるような赤い髪と誰が見ても目を引いてしまう美しい容姿、抜群のプロポーションを惜しげもなく晒すボディコンに身を包んだ彼女は20歳という若さでありながら今や押しも押されぬ業界トップクラスの人物である。

勢いのままに彼女に抱きついてしまったが、私はこの程度で満足するような軟弱な男ではない。

いつの日か堂々とこの手で彼女とくんずほぐれ

「アンタねえ、本人を前にしてずいぶん好き勝手言ってくれるわね」

「ああっ！？ 心の声が口に出てたーっ！」

「それに誰が正義のゴーストスイーパーか！ アンタはただの丁稚でしょーが！」

「ちょ、荷物持ちから丁稚に格下げっスカーっ！？」

「婦女暴行罪でブタ箱に放り込まれただけでもありがたいと思わんかー！！！」

「ブーツが！？ いつものハイヒールよりはましだけどブーツのヒールでもぐりぐりはやめて！ 愛が、愛が痛いーっ！」

『えーかげんにせんか貴様等ーっ!!』

俺が命を掛けて女体の神秘に挑もうとしていたところに野太いおっさんの怒声が響く。

開けてはいけない新しい世界への扉を開きかけていた俺にとつては助けにも似ていたが、美神さんが脚を振り上げる「スカートの中の絶対領域に近付けるといいう究極の公式が成り立っていただけに恨めしさが募る。

どこのどいつだと声の出所を探れば、俺といっしょに幸せになるうと言った女の幽霊が居た場所だ。

そこにあの女の姿はなく、別の幽霊の姿があった。

いや、よく見れば見覚えがあるような。

「ハッ、やつぱりアンタがそうだったのね。化けの皮を剥がして本性を見せたわね鬼塚畜三郎!」

『ドやかましーわ! 黙っておつたらイチャイチャしおつて!!
イヤミか!?!』

殺されるまでの32年間、女つ気なんぞ全くなかったワシに対してのあてつけかーっ!!』

「なっ!?! 幸薄そつな出前のねーちゃんがあのおっさんになつたーっ!?!」

鬼塚畜三郎。

今回美神さんが受けた除霊物件。そこで起きていた霊障の元凶でありこの建物の主であった男の悪霊だ。

残忍非道で冷酷無比。10代で一大勢力を築き上げた犯罪組織のボス。

その最期は部下に裏切られて殺された、というものらしいが生前の経歴を見れば同情の余地はない。そんな男だ。

しかも、死後悪霊になつてまで人様に迷惑を掛けているようなしつこい奴だ。

そんな奴が相手なのだから、俺はてつきり問答無用でシバキ倒すのかなと思つていたら美神さんの考えは違つたらしい。

曰く相手が相手だけに噂や報告書なんてあてにならない。本人の言い分も聞いてやりましょう、と。

美神さんも後ろ暗い事ありますからね〜と言つたらシバかれた。

で、交霊術だか降霊術だか分からんがとにかくそーゆー術を使つて本人を呼び出したわけだ。

結果は真っ黒。

報告書や噂に嘘偽りはなし。本物の悪党だった。

何やら喚き叫びながら突っかかってきた鬼塚の霊を平然と踏みつけていた美神さんはスゴイと思う。

その場は逃げられてしまったが相手は地縛霊。この建物から外へ出る事はまずありえない。

長期戦になると見越した美神さんが相手の出方を見る為に俺を餌にした時には、正直はらわたが煮えくり返る思いであつたが、お願いをされたあの時の、お互いの顔を間近に寄せ合つたあの瞬間のトキメキの前には許してやらん事もなくはない。

さりげなく胸が当たっていた事も大きい。誘っているのか？俺を誘っているのか？

ゴチになりますと抱きしめら腹に強烈な膝蹴りを食らつた。しかし悔いはない。

そんなこんなで色々あつて冒頭に至るわけだが、改めて思い出したら腹が立ってきた。

「俺の純情を弄んだんだなコンチクショーーーーッ！！　ヨコシマパーンチ！！」

狙いは当然目の前の鬼塚だ。

美神さんに踏みつけられていた事を思い出せば、相手は柄が悪いだけで大した事はないはずだ。

そんなはずがあるわけがないのに。

相手は霊だ。人に害をなす悪霊だ。

生身の人間、それも一介の高校生、荷物持ち程度にどうこう出来るような相手のはずがない。

美神さんはプロなのだ。彼女はその中でも特別なのだ。自分など彼女の周りにいる有象無象の一人にしか過ぎないのに。

強いのは美神さん、弱いのは美神さん。目の前の悪霊が恐れたのも美神さんだ。俺じゃない。

悪霊は横島忠夫の存在など歯牙にも掛けてはいない。

俺は何を勘違いしていたのか。

「ゴフツ！？」

俺のパンチは鬼塚の身体をすり抜けて空を切る。それなのに、勢いそのままに突き進む俺の身体は“鬼塚の霊体にぶつかって”弾き飛ばされていた。

「冗談じゃない。こっちの攻撃はすり抜けるのに相手の攻撃は当たるってどんな反則だ。」

「横島クン!？」

美神さんが俺の名前を叫んでいた。

ド素人の俺が、臆病な俺が見せたアホな行動は彼女にとって予想など出来るはずがない。

申し訳ない気持ちになりながら、怒っているだろうなと美神さんを見た。

いつも高飛車で妙な自信に満ち溢れて、自分やお金の事意外は屁とも思っていないであろう高慢ちきな女王様が、泣きそうになっていた。それは俺が見た美神さんの初めての表情だ。

見てはいけなかった、させてはいけなかった表情だ。

美神さんが持っていた霊体ボーガンを投げ捨てて飛び出した。

鬼塚の悪霊が俺を喰い殺そうと迫ってくる。

美神さんがスカートに陰に隠していたホルダーから神通棍を取り出して振りかぶる。

鬼塚が大口を開けて俺に覆い被さろうとしている。

間に合わないな、と冷静に状況を把握している俺がいた。

死に際の集中力だとか、走馬灯ってものは眉唾物だと思っていたがどうやら本当にあるものらしい。

俺の脳裏にこれまでの17年間がスクリーンに映された映像のようになら流れていく。

色鮮やかな場面もあればモノクロの場面もある。ノイズにまみれ

て何が何やら分からない場面もだ。

登場人物も多種多様。美神さんや親父やお袋、学校の友人や疎遠になった幼馴染、商店街のおっさんやエロビデオの女優さんもいる。けしからなくい込みのレオタード、いやビキニか？

そんな全くもってけしからん格好をした見知らぬ美女の姿もあれば、清楚な巫女さんやら褐色の肌の美女、十年後ぐらいに出会った少女や十年前に出会った美人さんの姿もあった。

犬のような尻尾を生やした少女、小生意気そうな少女、角を生やした女性に猿とかマザコンとかロン毛とか……

ちよつと待て。

いやいや、ちよつと待て俺の走馬灯。

明らかに“見た事もない、名前すら知らない美女たち”がいるのはどういふ事だ？ 男もいたよな気がするがそんな事はどうでもいい。

何だこれは？

俺はこんなにも美女に飢えているとゆーのに！

彼女ナシ17年の切ない生涯を終えようとしているのに！！

俺の走馬灯らしきモノは俺の見知らぬ美女たちに満ちているではないかっ!？

あり得ない！

理不尽だ!!

俺の走馬灯モドキっぽいモノの分際で、俺の知らない美女を侍らすとはいつたいたいどういふ見かっ!!

赦すまじ、俺の走馬灯みたいな何か!!

俺はありつたけの怒りと憎しみと嫉妬と煩惱と色々なモノを混めて込めて

「そのねーちゃんたちは全員俺のモンじゃー！ーッ！ー！」

『ギイヤアアアアアー！』

我が生涯に一片の悔い無しと、大往生を果たした世紀末覇者の如く。

拳を天に突き出して立ち上がっていた。

ワタ飴みたいななにかをぶっ飛ばしたような気がするが、今はそんなことよりも！

「何だあのけしからん乳尻太ももたちは！！ ハッ！？ そうか、あれは俺の妄想の中の住人！

つまり著作権者は俺！ ナニをどーしよーが俺の自由！！ 俺だけの
「

“ ナニを ”

「俺だけの桃源郷！ー！？」

「トチ狂つとるかキサマは！ーっ！！」

「うぎゃー！ー！っ！？」

修羅の如き美神さんのシバキを受けてぶっ飛ばされる俺。

あまりの衝撃の為か、その瞬間に俺の脳内の桃源郷の住人たちが霞がかって消えていく。

「ア、アカン！ そんなんアカン！！ まだ何にもしていないとゆーのに！！！」

必死だった。

「幻でもせめて一掴みーっ！」

次の給料日まで一週間の時点で所持金が三桁を切った時よりも必死だった。

失われていく桃源郷のねーちゃんたちを掴み取ろうと必死になつて手を伸した。

その手が 届いた。

美神さんの 胸に。

翌日、俺は白井総合病院のベッドの上にいた。

横では簡素な椅子に腰掛けた美神さんがなにやら書類の修正作業をしている。

あの後でいっただい何が起こったのか。俺にはきれいさっぱり記憶がない。

気がついた時にはベッドの上だった。

重症だったが後悔はしていない。悔いはない。

あの時確かに手にした乳の感触はいまだこの手の中にある。

この感触を覚えている限り俺はまだまだ進めるはずだ。

バレたらきつと殺されるので、この事は胸の奥に永久に封印しておこう。

そんな事をぼつつと考えていたら、美神さんが澄みきった笑顔で修正の終わった書類を俺に突き出していった。
雇用契約書と書いてある。

「横島くん？　“昨日から”時給250円ね」

「……………給料なんてどうでもいいです。一生ついていきます
おねーさま」

そうだ、悲しくなんてない。俺はやり遂げたのだから。
決してこめかみに井桁を貼り付けた美神さんの笑顔に、溢れ出る
黒いオーラに屈したわけではない。

命とプライド、どちらを取るか。

命と金、どちらを取るか。

ためらう事なく即答しよう。

命の方が大事に決まっていると。

しかし、だがしかし！

命と女。ならばどうだ？

ただの女ではない。綺麗なねーちゃんだ。ムチムチプリンの極上
なねーちゃんだ。

そして俺の勘は告げている！

このねーちゃんについて行けば、俺はきっとあの桃源郷に辿り着く事が出来ると！！

桃源郷が何なのか、自分自身さっぱり分からない！

だが、俺のことだから美人でエロくて可愛くて控えめで、それでも時々ふとしたことで

とにかく！

俺の勘が告げている。このねーちゃんから、美神さんから離れるなど！

当たり前だ！！

この横島忠夫、美人の為なら命など惜しみはせんっ！

でも、時給はもうちょっとなんとかありません？
駄目っスか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9679y/>

ゴーストスーパー横島 極楽大作戦R!!

2011年11月29日01時57分発行